

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「生き物についての考えを深めよう」 教材名「カミツキガメは悪者か」

2 単元の目標

書き手の考えと理由や事例の関係を理解できる。 叙述から考えと理由・事例の関係を捉え、文章を読んで自分の感想や考えをもてる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①書き手の考えと理由や事例の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、叙述から考えと理由・事例の関係を捉え、文章を読んで自分の感想や考えをもっている。（C(1)ア・C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

生き物についての書き手の考えと、それを述べる理由や事例を関係付けて読む。題名の問いに印象だけで答えず、本文で示された事実と自分の判断を分けて考える。 学習指導要領のC(1)ア・C(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

書き手の考え、理由や事例、自分の意見を別欄に置く。知らない生態は本文や確認できる資料の範囲で扱い、実物を捕獲・接触する活動にはしない。 おおむね満足できる状況は、叙述から考えと理由・事例の関係を捉え、文章を読んで自分の感想や考えをもっているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名への初めの答えを書き、全文を読む。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○段落ごとの内容を整理し、書き手の考えと事例を分ける。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○どの理由や事例が考えに関係するかを説明する。	学習状況を見て支援する。
	6 （本 時）	○題名の問いへの自分の答えを、本文の根拠から考え直す。	思①（発言・学習記録）
	7	○必要な情報を図書で確かめ、本文と出典を区別して記録する。	学習状況を見て支援する。
	8	○考えを伝え合い、理由の違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○初めの答えと比べ、理由や事例を読んだことで変わった点を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標

叙述から考えと理由・事例の関係を捉え、文章を読んで自分の感想や考えをもてる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「書き手は、どんな理由や事例からその考えを述べていますか。題名の問いへの自分の答えは、読む前とどう変わりましたか」 【めあて】生き物についての書き手の考えと、それを述べる理由や事例を関係付けて読む。 〈予想される児童の反応〉 ・生き物の性質と人が置いた状況を分けて考えたい。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「書き手は、どんな理由や事例からその考えを述べていますか。題名の問いへの自分の答えは、読む前とどう変わりましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・生き物の性質と人が置いた状況を分けて考えたい。 ・怖いという印象だけで決めていた。 ・事例を読むと一方だけを悪いと言えないと思った。	書き手の考え、理由や事例、自分の意見を別欄に置く。知らない生態は本文や確認できる資料の範囲で扱い、実物を捕獲・接触する活動にはしない。 想定する難しさ：題名の賛否投票だけになる。本文の事例を自分の意見と混ぜる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 叙述から考えと理由・事例の関係を捉え、文章を読んで自分の感想や考えをもっている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・事例を読むと一方だけを悪いと言えないと思った。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。 次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書き手は、どんな理由や事例からその考えを述べていますか。題名の問いへの自分の答えは、読む前とどう変わりましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

